

平成 30 年 10 月 6 日

「大阪城トリアスロン大会 水質調査とボランティア活動」

大阪バイオメディカル専門学校

バイオ学科 3 年 山田茉里奈、鷺見祥代

共同実験者

バイオ学科 3 年 安達悠 木戸涼加、

バイオ学科 2 年 井原幸介、伊吹直哉、宇都宮光、田島叶也、田部瑞貴、中上泰揮

<背景>

昨年 6 月、国際大会である第 1 回大阪城トリアスロン大会が盛大に開催された。そのスイムコースは大阪城東外濠に設定されており、その水質やイメージがあいまって、メディアでも大きな話題となった。そこで我々は、第 2 回大会の開催に向けて、日頃、培っている分析技術で地域貢献を実現したいという想いから、大会実行委員会に水質データ提供のご提案をいたし、ご快諾いただいた。また、大会運営に係るボランティア活動を通して地域貢献を実践するものとした。

<目的>

- ①大阪城トリアスロン大会実行員会様・NPO 法人エコデザインネットワーク様にスイムコース水質のデータ提供（水浴場基準）を行うこと
- ②分析技術を通して地域貢献をすること
- ③安心安全な大会運営に協力すること

<材料と方法>

水質データ提供

大阪城東外濠の南端部・中央部・北端部に採水地点を設定した。採水は、毎度、大阪城トリアスロン実行委員会のご担当の方にご同行いただいた。調査は基本的に月 1 回行うものとした。

それぞれの地点の水質について、気温・水温・透明度などの物理項目をはじめ、水浴場基準である COD、糞便性大腸菌群数、追加項目として溶存酸素量、大腸菌数を測定した。測定手順は環境省告示の公定法に則って調査・分析した。

ボランティア活動

大会前の数日間にわたり、バイオ学科・バイオ技術学科学生を中心に、大阪城トリアスロン実行委員会の皆様と共に、清掃、コース・本部などの設営、大会当日の運営のボランティアを行った。大会 2 日前のコース設営、清掃活動では学科学生総勢 150 名で取り組んだ。

<結果>

平成 30 年 2 月から 5 月の水質について継続的に水質に報告し、大会前には水浴場基準を満たしていることを確認した（判定 C）。また測定を通して、分析データに対する責任を実感し、技術向上に努めた。

ボランティア活動の取り組みと合わせて、大会実行委員会の皆様にご大変喜んでいただけ、大会 HP に協力団体としてご掲載いただいた。次年度大会開催に向けて、今後も継続して水質データ提供のご依頼を頂戴し、ご提供中である。